

## 25<sup>th</sup> International Symposium on Glycoconjugates にてポスター発表

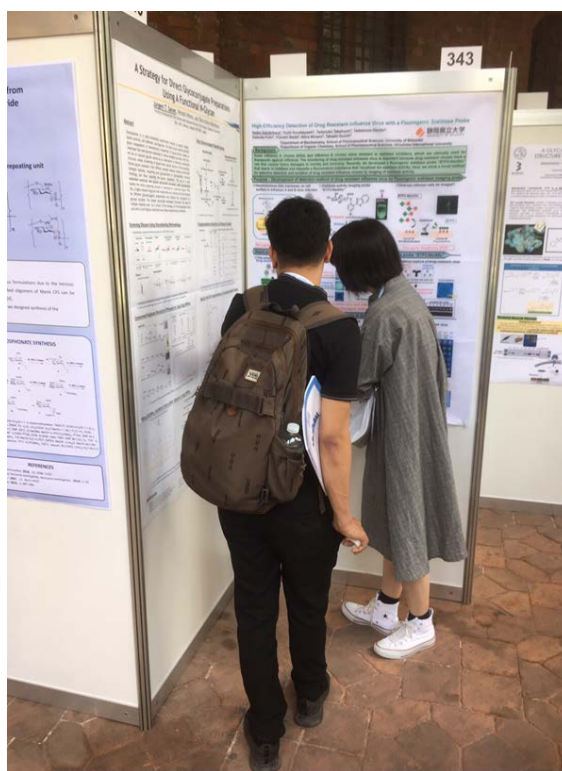
私は、イタリアのミラノで開催された International Symposium on Glycoconjugates に参加しました。本学会は主に糖質に関する研究者が参加する大規模な学会で、500 題以上の演題について、研究者たちがお互いに白熱した議論をしていました。

私は、「High-Efficiency Detection of Drug Resistant-Influenza Virus with A Fluorogenic Sialidase Probe」という演題タイトルで、薬剤耐性インフルエンザウイルスを高感度に検出する方法の確立を目指した研究についてポスター発表を行いました。最初は外国人に自分の英語を話すことが気恥ずかしく、話しかけることを躊躇していましたが、次第に慣れ、積極的に研究について英語でディスカッションができたと振り返ります。

国際学会に参加して苦労したことは、日本ではインフルエンザの治療に薬を使うことが当たり前ですが、外国ではあまり薬を使わないため、薬剤耐性インフルエンザウイルスの問題性が聞き手に伝わりにくかったことです。日本の学会では問題なく進んでいた話がなかなか相手に伝わらず、何度も英語を言い換え、伝える努力をしました。一方で、私のポスターを見て、研究内容やリファレンスをメモしていく研究者が何人かいたため、自分の研究内容を世界に魅力的に思ってもらえたのだと感じ、とても嬉しかったです。

今回の学会は私にとって、二回目の国際学会でしたが、前回よりも英語でのコミュニケーションスキルが向上していることを自覚できたのと同時に、まだまだ自分の英語力が足りないことを痛感させられるよいきっかけとなりました。また、日本での学会とは違った視点から質問やフィードバックをうけることができ、この経験を今後の研究に活かしていきたいと思います。

このような機会をいただきましたことに、心から感謝いたします。



薬食生命科学総合学府 博士前期課程

薬科学専攻2年 生化学講座

榊原佳子